

## 2019年注目の天文現象

桑田直宏

1月新年会で自分が見たいと思っている今年の天文現象を紹介しているのですが、2019年度はなんとということでしょうか、何もありません！

これほど楽しみになるような天文現象がない年は珍しいです。皆既月食はないし、惑星も木星はさそり座、土星はいて座付近にあって、日本からは高度が低すぎてよく見えないと思われま。流星群はしぶんぎ座流星群（1月4日終了）を除いて、ペルセ群もふたご群も月明りで最悪の条件になっています。太陽もここ数年異常に静かな状態が続いていて、黒点もほとんど出現しないような状態となっています。

期待するのは、願望も含めての大彗星出現です。世間が注目するような明るい彗星は10年に1回といわれています。確率的にもそろそろ大彗星が現れてもいいタイミングです。こんなことを期待するしかない1年になりそうです。



2015年1月13日のラブジョイ彗星

さて、個人的にはゴールデンウィークのオーストラリア南天旅行を大変楽しみしています。2014年の福原さんとのニュージーランド旅行から早くも5年の歳月が流れました。

その時には観望用として7.6センチの屈折望遠鏡を持ち込みましたが、それで見ると南天の天体は想像以上に素晴らしく、帰国してからも満足するどころか、もう一度見たい、もっと大きな口径の望遠鏡で観望したいという思いが募ってきました。

今回は15センチのシュミカセを持っていく予定です。この口径で見ごたえのある天体は、黒田さんカタログを参考にしながらリストアップする予定です。

南天の銀河や天体はもちろん撮影しますが、それは自動ガイドと自動撮影にして、望遠鏡でじっくりと観望することに徹していこうと思っています。

